



朝日子だより

吉田高校 進路指導部

H24. 10. 23 発行

社会人編 Vol. 11

吉高生のみなさんへ

今出来ることを精一杯頑張ってください。将来について模索している在校生の参考になれば嬉しいです。

勝俣 妃 (平成14年度 普通科卒業)

参議院事務局 厚生労働委員会調査室 (※平成24年9月より、外務省へ出向)

東京外国語大学 外国語学部 欧米第二課程 スペイン語専攻卒業

仕事の内容は・・・

参

議院事務局という名前を耳にしたことはありますか？参議院事務局は、参議院の活動が円滑に行われるよう補佐するための様々な業務を担っています。

参議院事務局の果たす機能は多岐にわたり、本会議や各委員会の運営を扱う会議運営部門、国会議員の活動をシンクタンク的にサポートする調査部門、事務局組織としての人事・財政等を総括する総務部門の3部門からなっています。私は平成21年に入局し、調査部門の厚生労働委員会調査室に配属されました。国会に提出された法律案等は、まず各委員会において審査され、その後本会議における議決を経て最終的に法律となります。調査部門は、そうした各委員会に対応する形で、外交防衛、財政金融、文教科学、予算など、全部で19の調査室が設置されており、各室の調査員は委員会での審査や活動が充実したものとなるようサポートしています。

具体的には、法律案の審査関連資料の作成、議員が提出する法律案の補佐、国会議員からの依頼に基づき、法律案の論点の提示や関連データの提供等を行っています。また、情報提供のみにとどまらず、提出された法律案についての論点等の紹介や議論を呼んでいる話題についての現状と課題を提示するなど『立法と調査』という刊行物への執筆を通じた情報発信も行っています。

日々の仕事は机上業務が大半ですが、国会の閉会中は、シンポジウムや研修への参加、地方への視察を行います。視察において、直接地方に赴き、現地の関係者の声を聞くことは、日々の業務に備え、調査員としての知見を深める上で重要な業務です。

私の所属する厚生労働委員会調査室では、新人調査員であっても入局10年以上の先輩職員であっても、ほぼ同等の機会が与えられます。新人であっても、国会議員と直接接し、政策等について



の説明や論点を提示する機会もあるのです。非常にプレッシャーを感じ、最も緊張する瞬間ですが、調査員としての醍醐味を感じられる瞬間でもあります。

職場の様子は・・・

厚生労働委員会の所管範囲は、年金、医療、介護、労働等、国民の生活に直結する分野であるゆえ、国会議員や議員秘書等からの依頼も絶えません。調査室の中でも、非常に忙しい調査室の一つです。ただし、国会開会中と閉会中とは大きく異なり、一年を通してその忙しさにはメリハリがあります。

厚生労働委員会調査室は女性の数が多く、気さくな先輩職員が多いため、とても賑やかな職場です。プレッシャーのかかる業務が多くと、こういった毎日のコミュニケーションが息抜きとなっています。

「調査員」という立場上、特定分野の専門家というイメージが強いのですが、私はもちろんのこと、大学時代から社会保障分野を専門としていた方は多くありません。担当分野についての情報収集など自己研鑽することは当然ですが、一人で全ての依頼をこなすことが困難な場合もあります。私の場合は、先輩職員の助言やサポートを受け、困難な依頼をこなしています。

調査員には、冷静な判断力、多角的・客観的な視野、的確且つ効果的な説明能力等、様々な能力が求められます。国会議員や秘書の方々の中には、多種多様な職歴を経験した方も多く、そういった方々とのやり取りを通じて、学ぶことも非常に多くあります。



皆さんもご存じのとおり、職場は永田町にあります。しかし、調査室の建物は国会議事堂（本館）ではなく、別の建物となっているため、本館へ行く機会は少なく、今でも、本館に足を踏み入れる度にその雰囲気圧倒されます。現在私は外務省に出向していますが、参議院事務局では、入局後約10年で会議運営や調査などの3部門を経験することになるので、いずれ本館の中に自分の机を持つことがあるかもしれません。

就職前と就職後の印象の差・・・

立法機関をサポートする仕事ということで、就職前は非常に敷居が高い職場だと感じていました。また、私自身が外国語学部出身であったため、業務をこなしていけるか不安を抱いていました。しかし、実際働き始めると、先輩、同期や後輩職員は、必ずしも法学部や経済学部出身ではなく、様々な経歴や学歴を持っていることを知りました。多様なバックグラウンドを持つ職員が集まる職場であるからこそ、様々な視点や客観的な判断ができるのだと思います。各々が習得してきた知識はもちろん重要ですが、入局してから自分がどうあるか、何を学んでいくかということも重要だと実感しました。

逆に、印象の差を感じなかったことが一つあります。それは、私が参議院事務局への入局を決めた理由の一つでもある職員の「人間性」です。事前の説明会や面接試験、先輩職員との面談を通して、是非一緒に働いてみたいという方々に出会いました。この印象は、入局前も今も変わっていません。参議院事務局は経験豊かで魅力的な方々で溢れているのです。



学生と社会人との違い・・・

「責任の質」です。学生の頃は、課題を提出しなかったり、朝の課外学習に寝坊して遅れたりしても、その結果は自分に降りかかり、その後の学生生活で致命的になることはありません。一方、社会人としての行為は、その結果を自分で受け止めきれものばかりでなく、「他の業務が忙しかったから」「寝坊したから」などという言い訳は通用しません。社会人であれば、自分の言動に責任を持つことは当然のことです。とりわけ、参議院事務局職員として働く日々の中では、自分の言動が国会の活動に直接影響するケースもあることから、責任の質という点で学生と社会人の違いを感じています。



今役に立っていると感じる高校時代の経験・・・

高校時代は3年間ハンドボール部に所属し、部活動中心の生活といっても過言ではないくらい部活動に励んでいました。今思えば、この部活動と学業の両立によって得られたハングリー精神や忍耐力が、社会人となった今でも役立っています。

ハンドボール部で毎日夜まで練習に励むと同時に、朝の課外授業や小テスト、先生から課される多くの宿題等をこなしていくのは簡単ではありませんでした。私は「インターハイ出場」と「第一希望の大学への進学」という2つの目標を持っていましたが、吉田高校だったからこそ、両方の目標を達成できたと思っています。

高校時代には実感はありませんでしたが、吉田高校の先生方は非常に熱心であり、そのサポート体制は強力です。目の前にある課題やテストをただ必死にこなしていくだけの毎日でしたが、その毎日の積み重ねによって、忍耐力が身に付きました。そして、どんなに辛くても頑張ろうと思えるハングリー精神は、高校時代の日々の生活から得たものであり、それが現在の生活でも役立っています。

自分がどんな進路に進むか、何をすべきか、ということが明確な高校生はそう多くないと思います。私も先のことはあまり考えずに突っ走っていた一人なのですが、先生方を信じ、目の前にあることを精一杯頑張ることも、決して無駄にはならず、将来役に立ってくると思います。

